



コーチ
飯沼勝也さん

「努力すれば努力した分だけ結果として報われる。それがレスリングの魅力です」

「投げ技が魅力のグレコローマンが好きで、強くなりたくて葦崎工業高校に入りました。文田健一郎選手と『思い出スパーリング』をさせてもらったことを、ずっと忘れずに練習に励んでいます」



3年生
岩間光海さん

「文田健一郎選手に、次の大舞台でもぜひがんばってほしいです！」

「地元葦崎の同じマットの上で練習してきた文田健一郎先輩がオリンピックに出ることが決まって嬉しいです」



1年生
大村幸誠さん

「小学生の頃、文田健一郎さんに練習相手になってもらえて嬉しかったです！」

「勝った時の嬉しさとひっくるめれば大変なことも辛くなります」



3年生・キャプテン
矢部晴翔さん



3年生
篠原晃司さん



1年生
北脇香さん

はずっと教え子に恵まれてきたっっちゃうことですね」と感慨を語る。
「夢は強く願えば叶う。それは常に言い続けています。強くなりたい、勝ちたいと強く願えば、きついこともきつと思わなくなる。健一郎も周りからはどんなにしんどそうに見えても、本人の中ではしんどいとは受け取っていないんですね。今回の世界選手権で指を怪我して出場した決勝でも『アドレナリンが出ていて痛みはまるで感じなかった』と言っていましたし。そ

んな息子が優勝して、東京オリンピックへの切符を手にして。もちろんまだ通過点ですので、本人はもちろん、我々も一層気を引き締めておりますが、こうして地元の方々に祝福していただいて、声援を送ってもらって、そのことが今の部員の励みにもうんとなつていてと思います」。

巻頭特集



文田健一郎選手を輩出した 「逃げない強さ」を育む Nirasaki Technical High School Wrestling 葦崎工業高校レスリング部

(文・佐々木知勢子/写真・浅川俊樹)

レスリング世界選手権男子グレコローマン60キロ級で優勝！東京オリンピックの代表権を獲得した文田健一郎選手が地元・葦崎市へ報告に帰ったのは9月22日。まぶしい笑顔で撮影に応じてくれたその胸には「ならない」2013年11月号。表紙にも前列中央に在部時代のご本人の笑顔が輝いている！
目標に向かって世界へはばたく彼を育てた父・文田敏郎監督を訪ね、葦崎工業高校レスリング部の強さの理由をあらためて教えていただいた。

強くなりたい、勝ちたいと強く願えば、きついこともきつと思わなくなる



文田敏郎監督

「地域性なのでしょうねえ。峡北の子供たちは我慢強く頑張りやさんが多い。私が思ったのは、『あ、逃げないな。この子たちは』ということ。葦崎工業高校レスリング部の文田敏郎監督はそう話す。

5年前の巻頭特集でも経歴をご紹介しているように、自身も元グレコローマンの選手で、昭和61年に高根町と須玉町で開催された「かいじ国体」に出場したのをきっかけに、次世代育成の指導者として山梨県に招かれたという。

「インターハイが山梨で開催された平成8年まで峡北

高校（現在の北杜高校）で教えていました。それまで柔道すら知らなかった子たちが、新しいレスリングというスポーツをゼロから始めて、よく厳しい指導についてきてくれました。インターハイでは団体戦で3位になって、あれは快挙でした。今でも一番といっていいくらい嬉しかった思い出です」と振り返る。

その時の勝利に貢献した中心人物の一人が、現在、葦崎工業高校レスリング部で部員たちの面倒を見ている飯沼勝也さん。「彼ももともと野球をやっていた、いいピッチャーだったのですが、自ら志願してレスリングに転身しました。もう一人、彼の先輩で、今、須玉中学校で体育教員をしている坂本栄裕がいます。二人がああ米満達弘にロンドンオリンピックで金メダルを取らせたんですよ」と教え子を読める監督。

そう、葦崎工業高校レスリング部はまさに「金の卵」がかえって世界に飛翔する場。文田監督の指導を受け継いだOBたちが大切に魂を温めているのだ。

「在部中に息子の健一郎も、2012年にロンドンまで行って、現地で米満が金メダルを取る瞬間、日の丸が揚がる瞬間を見ていました。その時にきつと『かっこいい』という憧れや『自分もそうになりたい』という夢ができたんだと思います。だからこそ、今の部員たちも、健一郎の活躍を目の当たりにすることでまた次の4年後、8年後を目指す気持ちを持ってもらえば嬉しいですよ。文田監督は清々しい表情でそう話す。

そして、「地方の公立高校を目指して全国から志願者が集まるようになるなんて、ありがたいことですよ。地元の子どもたちはもちろん、『葦崎工業高校でレスリングをしたい』と今では県内外から生徒が来て、こちらの寮で生活をしており、現在は、コーチの飯沼が寮長としても活躍してくれています。『金の卵をどうやってかえすのですか？』って聞かれても、『勝手に孵化してくれるので』って答えていますよ（笑）。とにかく私



文田健一郎選手

葦崎市出身
葦崎北西小学校→葦崎西中学校
→葦崎工業高校→日本体育大学
現ミキハウス所属

◆文田健一郎選手からスペシャルメッセージ

2年ぶりに世界選手権で悲願の金メダルを獲得し、最高の形で大きな山を越えられました。これで、2020年の東京オリンピックへ向かってしっかりと照準を合わせられます。世界選手権に初めて出場した時はポイントが離されると焦る自分もいたのですが、今回は相手を見ながら次はこう攻めてみよう！など、落ち着いて考えられ、2年前より成長できたと思います。東京オリンピックまでに、自分自身も別人だと思えるくらいに成長をさせたいです。世界のどの選手にも『追いつけなかったな』と思わせられるように。

「誰よりも強く願うと夢は叶う」。これまでずっとそう信じてきました。どんな夢も、第一歩は強い願いです。強く願えば、自然とそのために何をすべきかが浮かんでくるはずですよ。